

普及活動情勢報告（平成27年12月分）

高吾農業改良普及所

日高村あぐり大会で中山間農業複合経営拠点構想について講演会を開催



日高村では、毎年、生産者や農業関係者らが参加する「あぐり大会」を開催しており、普及所は実施内容について情報提供や助言を行っています。今年は12月1日に開催され、その中で中山間農業複合経営拠点構想について地域農業推進課職員が講演を行いました。日高村からは、村が考えている取り組み（案）が説明されました。

50名の参加者からは「農業研修生はどうやって確保するのか」「鳥獣害対策にかかわる人も高齢化しているので担い手育成が必要」「日高型複合経営の研究をしたらどうか」などといった質問や意見が出されました。

普及所では、中山間農業複合経営拠点構想が具体化するよう、情報提供や提案等を行い、拠点設立に向け支援していきます。

仁淀川流域から新たな茶の発信のために ～半発酵茶プロジェクトチーム会を開催～



11月30日、茶業試験場で半発酵茶プロジェクトチーム会を開催しました。これは、仁淀川流域茶の生産拡大のため、緑茶以外の茶の生産にも取り組もうとする活動の一つです。

当日は、生産者やJA、(株)小谷穀粉、県などから20名が参加し、茶業試験場やお山の茶明郷園からは「やぶきた」「べにふうき」「はつもみじ」などの品種を使い、品種の特徴が出た半発酵茶が、(株)小谷穀粉からは輸入しているウーロン茶が提供され12種類を試飲しました。

普及所では、このプロジェクトチーム会を通じ、生産者への茶業試験場の試験研究成果の情報提供や、製造技術の提供を行うなど、生産・販売を支援していきます。

仁淀川地区農漁村女性グループ研究会が、地元小学生と伝承料理講習会および芋煮交流会を開催



11月27日、仁淀川地区農漁村女性グループ研究会が、池川小学校の5・6年生19名を「木どり家」に招待し、伝統料理講習会および芋煮交流会を開催しました。

当日は2グループに分かれて、地域に根差した食品である、こんにゃくといりもちを作りました。参加した小学生からは「初めて作った」「こんにゃくを丸めるのが難しかった」などの声が聞かれ、地元のことを知る良い機会となりました。その後、グループ員が調理した田楽や芋煮などの郷土料理がふるまわれ、交流を深めました。

普及所では、従来から研究会活動を支援しており、12月には研究会の視察研修が予定されていることから、有益な研修となるよう、視察先の情報収集や計画の作成を支援していきます。

仁淀川町の集落営農組織が県内集落営農組織の視察研修を実施



12月4日、普及所は、仁淀川町実施の視察研修に同行し、集落営農の取組について意識啓発を行いました。当日は5集落から農業者・関係機関含めて14名の参加がありました。視察先の津野町と四万十町ではそれぞれ園芸品目などを導入しており、参加者も集落でのまとまりの必要性を感じたようでした。

仁淀川町では、先月18日にも他の農業者の参加により香美市にも視察研修を実施しており、参加者からは、「自分たちの地域とは1枚の農地の規模も違い、同じような取り組みはできないが、地域の将来を考えていかないかん。」という声がありました。

普及所では、引き続き地域で話し合う機会を持つよう支援していきます。

J Aコスモス佐川支所イチゴ部会が摘果講習会を開催



12月4日、J Aコスモス佐川支所イチゴ部会が摘果講習会を行い、15戸の農家が参加しました。これは、佐川地区で導入が拡大している品種「ゆめのか」の高品質な果実生産のため、一番果の摘果時期と摘果量を調整するものです。

当日は篤農家の実演を交えて、部会員同士で情報交換をしながら技術を習得しました。新たに「ゆめのか」を栽培する生産者も、残す果数や大きさを、実際に摘果しながら確認できました。

普及所では、「ゆめのか」の特性に合わせた栽培方法や厳冬期の栽培管理について情報提供を行い、高品質高収量を目指してイチゴ栽培を支援していきます。